



## Contents

- ・【巻頭エッセー】ワクワクの薦め… 青木高志 ●表紙
- ・ Library Data 2020 ●2～5
- ・ 風景の中で⑨…図書館長 井上郷子  
資料の部屋⑨…安田りや子 ●6
- ・【私のおすすめ】…橋原敬之  
ニューフェイス 2021…小山照美 ●7
- ・ Information ●8

# Parlando

ぱるらんど 「語りかけるように歌う」という意味の楽想記号です

No.311

## 【巻頭エッセー】 ワクワクの薦め

青木 高志

時折「よくぞここまでヴァイオリンを弾き続けてこれたものだ」…と、改めて感じることもある。これまでの多くの「良きご縁」に恵まれたことで今の自分があるのだが。

そんな私だが、今までに最もよく聴いたCDといえば、ヴァイオリンのものではなく、多分ヴェルディの《オテロ》なのではないかと思う。

中学2年生の頃だったかテレビで放送された、ドミンゴの歌う《オテロ》を見たのが初めての出会いだったが、その時は「ひと通り見た」という程度のものであったように思う。その後中学3年生の時、「オテロ歌い」で有名だった世界的テノール、マリオ・デル・モナコが亡くなったというニュースを読み、ふと「ああ、あの時観たオテロか…」と、追悼・アリア集レコードを買ったのがこの始まりだった。

オテロ冒頭の素晴らしい歌声に打ちのめされ、一気にイタリアオペラの世界にまっしぐらにのめり込んでいったのだ。彼の代表盤である1961年録音・カラヤン指揮の《オテロ》全曲レコード\*（当時はCDではなく、ましてやダウンロードでもない）を購入し聴きまくっていたが、自分の持っているレコードの中で初めて（聴き過ぎて??）雑音が出始めたのがこのディスクである。

ただ、ずっと気になっていることがあった。最初買ったアリア集冒頭にあった「オテロの登場」の一節は、1954年録音・エレーデ指揮のものなのだ。その全曲盤は何故か廃盤状態でどこを探しても売っていない。そうすると余計「全曲を聴きたい!」という想いがつのる。

そこですがるは「大学図書館」! 検索カードの引き出しを開け「オテロ」の項から1954年のものを探す。さすが大学図書館、しっかり所蔵してくれているではないか! ワクワクしながらレコードを借り、大学の視聴覚室のヘッドホンで聞く初めての1954年・オテロの全曲音源\*。憧れていた録音の壮大な物語をドキドキしながら聴き入った。それからは、空き時間があると図書館に行き、オテロ以外にもなかなか聴くことの出来ないライブ音源なども検索・試聴し、沢山の「ワクワク体験」をしたのが図書館だった。

その後、ご縁を頂き大学卒業と同時に入団したのが東京フィルハーモニー交響楽団。日本のオーケストラの中でも屈指のオペラ演奏の多いオーケストラだ。図書館で胸躍らせながら聴いたオペラの数々は、仕事の上でも自分の原点のひとつとして根付いている。

今ではYouTubeなどで簡単に音源・動画を試聴することが出来る世界となっている。図書館よりも手軽かもしれないが、何であれ「ワクワクする世界」「好きな世界」を見つけ、のめり込めることがどれだけ幸せなことか。私の場合、イタリアオペラに出会えたこと、そしてその世界を広げてくれた図書館に感謝! である。

皆さんにもまだ見ぬ「ワクワクする世界」があるかもしれない。どうかそんな出会いを見過ごさぬよう! そして、見つけたらとことんのめり込んでみてはいかがでしょうか。

\*録音資料の詳細は8ページ参照

●あおき たかし 本学教授(ヴァイオリン)